

竹の子会の基本目標

1. 人間形成への修練
1. 地域社会への奉仕
1. 会員相互の親睦



竹の子会会報

No.618

竹の子会総務委員会

令和4年7月7日

第66期 終了のあいさつ



第66期会長
名和 良能

昨年の7月よりスタートした66期ですが、一年を無事終えることが出来ました。限りある時間の中で、大垣竹の子会会長の役職を与えていただきました事は、今後の人生においてかけがえのない貴重な時間を過ごすことが出来ました。改めて特別会員の皆様、現役会員の皆様に感謝申し上げます。

今期は、「問い続ける～現在を見つめ 志す未来へ」をスローガンに掲げ、常に自分に問い続け、活動に励み、自分の成長に繋げることを目標に、一年間をスタートさせていただきました。自分自身でも常にスローガンを意識し行動していました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の新規感染者の高止まりが続き、事業の中止をやむを得ない状況が続きました。その中でも開催することができた事業で特に印象に残っているのは、4月に行われた卒業生例会です。卒業生の皆様が現役会員に感謝を伝えるという企画でした。『笑ってはいけない感謝状表彰式』という題目で準備をするにあたり、会員の家族にも協力を得たりして完成することができました。笑いあり、感動ありの素晴らしい例会になりました。普段、中々会員同士が交流を持つことが少ない中、この企画を通し親睦を深めることができたと思います。他にも今期は、素晴らしい事業がありましたが、

どの事業も今の状況下で出来る最大限の事業が出来たのではないかと思います。

やはり、今後の竹の子会の課題は会員の拡大です。私たちの活動をインスタグラムで発信、役員会等の中で時間を設け、新入会員候補者の情報共有などを行い、会員の協力もあり、今期は、6人の新規会員を獲得することができました。しかし、時代の変化、社会の変化に伴い今までと同じやり方では会員の減少を止めることはできません。今後は会員ひとりひとりが、なぜ竹の子会に入会したのか、なぜ会員を増やしたいのか、今一度考え、行動することが大事なのではないかと考えております。

この一年間会員ひとりひとりにとってどのような一年であったのか、成長を感じてもらえた一年であったのか、今でも自問自答を繰り返しているところです。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく制限を受けた年であり、当初の予定通り行うことが出来ないことに、悔しい気持ちはありましたが、ここまでやり遂げられたのは、会員の皆様の支えがあったお陰と深く感謝いたします。会長として皆様と活動出来ましたことを大変嬉しく思います。

最後になりますが、ご尽力、ご協力を賜りました特別会員、関係各位の皆様、そして最後まで会を盛り上げていただいた現役会員の皆様に再度感謝申し上げます。一年間本当にありがとうございました。



5月度例会(新入会委員例会)



第66期入会
岩田 昂大

皆様、こんにちは。66期入会の岩田昂大です。今回5月20日に新入会員例会を開催させていただきました。まずは、出席頂きました会員の皆様ありがとうございました。

66期は私を含め3人の新入会員がいます。年齢も違えば、仕事内容も違うなど本当にバラバラです。

しかし、そんな3人で作り上げた例会は1年の総仕上げとして満足のいく結果でした。

サバイバルハックと題し、震災時等に活用できる術(水の濾過、アルミ缶等を使った湯沸かし等)を学べる内容を企画しました。昨今、異常気象や地震

が多い為、何か役立つ事を知って欲しいという3人の合致した思いからの企画です。

この事業を通し、各々準備を忘れていないか等、考えていたはずが、当日にアクシデントがあったり、教養委員会の方にフォロー頂いたり自分たちの思う数倍考えが及んでいない事を思い知らされ、更に会長や委員長など先輩方がいかに各事業で綿密に準備をされていたのかという事も知りました。

結果として色々ありましたが先輩方から「よかった」の一言を頂けたのはとても光栄です。出来た事、そうでない事、知れた事すべて含めて満足のいく例会でした。来期は副委員長として3人が活躍できるよう互いに高め合っていきたいです。



第66期 卒業生あいさつ



第54期入会
金山 幸生

皆様こんにちは。第54期入会の金山幸生です。

令和4年6月30日をもちまして、13年という長きに渡る竹の子活動を終え、卒業を迎えました。思えば54期に入会した時と比べ、人として大幅に成長できたのではないかと感じております。これもひとえに日頃からご指導ご鞭撻、そして可愛がって頂きました先輩方、こんな私でも慕ってくれた可愛い後輩たちのおかげです。ありがとうございました。

振り返ればこの大垣竹の子会で本当に色々な事を経験させて頂きました。得られた物も非常に沢山あります。つどい会長という大役も、竹の子会に入会

したからこそ経験できた事ですし、他にも副会長、委員長にて担当した事業は私にとってどれも大切な思い出であり、宝物です。そして今までの竹の子活動や事業を通じて得られた友人達は竹の子を卒業した後も一生付き合っていきたい、この青年活動で得ることのできた一番の宝物です。

13年間と長きに渡り、このわがままで、自己中、クセしかない、金山幸生と共に活動して頂きました皆様、私がこの青年活動を精一杯楽しむ事が出来たのは皆様のおかげです。大垣竹の子会に入って本当に良かったと心から言えます。ありがとうございました。

そして、まだまだこれからもよろしく願いいたします。



第60期入会
今西 勇人

この度、今期をもって卒業することになりました第60期入会の今西勇人です。竹の子会に入会してから7年間、本当にあっという間に時が過ぎていきました。右も左も分からないまま入会し、時間とお金、そして妻の機嫌が許される限りは、ほぼ全ての事業や懇親会に参加させていただきました。気がつけば7年皆勤賞と自分でも大変驚きました。しかし、ここまで最後まで休まず参加出来たのも現役会員の仲間や諸先輩方のお陰だと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

竹の子会の活動を通して感じた事はやはり仲間の大切さだと思います。事業に参加する度に新たな仲間や経験が出来、自分一人では成し得ない事も仲間

と協力すれば無限の可能性が広がる。自身が奉仕委員長や副会長、そして65期の会長職を経験した際に身にしみて感じました。特に65周年の周年事業ではコロナ禍の中、常に判断に迷う事もありましたが、仲間がサポートしてくれたお陰で、事業は成功し、たくさんの子供達や市民の皆様の笑顔を見れた事は何ものにも代え難い良い経験となりました。

最後になりますが、現役会員の皆様、竹の子会は真剣に向き合えば本当に自分自身を楽しみながら大きく成長させてくれる絶好の場です。この好機を活かすも、潰すのも自分次第です。本気でぶつかり合って、全力で楽しんで下さい！大垣竹の子会の更なる発展と皆様のご活躍を心より祈念し、卒業の挨拶とかえさせていただきます。7年間本当にありがとうございました。



第61期入会
大場 隆伊

皆様、こんにちは。61期入会の大場隆伊です。66期をもちまして、無事卒業することができました。これまで共に活動し支えて下さった諸先輩方や現役会員の皆様のおかげであります。心より感謝申し上げます。

5年間という短い期間でしたが、竹の子会の活動を通して、どんな事でも一生懸命に取り組めば、会員同士の助け合いが友情に変わり、生涯の友人がたくさんできました。

また、事業部会長を務めさせていただいた、65周年事業では無理かと思われた大垣城公園で気球を上

げる事業も、これまで諸先輩方が築かれた信用や実績により実現することができ、改めて65年も続いた大垣竹の子会の偉大さを痛感しました。

最後になりますが、大垣竹の子会と皆様の益々のご活躍とご発展を心より祈願し挨拶とさせていただきます。5年間本当に有難うございました。



第61期入会
後藤 大輔

61期に入会しました、後藤大輔です。私の竹の子会に入会するきっかけは、同期の大場さんと今西直前会長に誘われたことでした。私は以前からこのような経験がなかったため、入会することを悩みました。しかし、61期の林会長や誘ってくれた今西さん、大場さんからの後押しもあり、入会を決意したことを今でも覚えています。皆様に支えられて、あっという間に過ぎてしまった5年間ですが、心残りなのもう少し積極的に参加することができればよかったと思っています。

仕事の都合により、少しずつ参加することが少なくなっていました。63期には教養委員会の委員長として活動しましたが、あまり参加できていなかっ

たため、分からないことが多く、ご迷惑をおかけしました。しかし皆様のご協力により乗り越えることができ、本当に良い経験をすることができました。また、なかなか参加できていなかった自分をいつも温かく迎えていただき、良い会員が集まっているということを参加するたびに感じており、皆様の温かさが竹の子会の強みであるといつも思っていました。

改めまして、会員の皆様には大変お世話になりました。竹の子会に入会したことで経験したこと、学んだことは、今後の人生に間違いなく生かすことができると思います。

最後になりますが、会員皆様のご活躍と大垣竹の子会の発展を祈念しまして、卒業の挨拶とさせていただきます。5年間ありがとうございました。

第67期 スローガン 『TRY～恩返しの心を忘れずに～』



第67期会長
野原 利秀

この度、第67期会長を務めさせていただきます第60期入会の野原利秀です。伝統ある竹の子会会長に選任していただきまして、大変光栄であるとともに、諸先輩方が永きに亘り築いてこられました伝統と歴史の重さに身が引き締まる思いでございます。

今日を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症が流行してから67期で3年目を迎えます。感染が拡大してからは事業を開催することが難しいときもありましたが会員の努力により、事業を開催することができました。それを踏まえてコロナ禍の中でも開催できる事業であり、固定観念にとらわれない事業を考えていきたいと思えます。

今回、スローガンに込めた私の思いとしては、会の活動、仕事、プライベートにおいて、失敗をおそれ挑戦できないことがあると思えます。私も来期で8年目を迎えますが、今までこうしておけば良かったと思うことがたくさんあります。その中で、やはり苦勞した経験は今でも良い思い出となっています。67期は常任を含め、委員長を初めて経験するメンバーが大半を占めています。型にはまるのではなく、今の時代に合った新しい取り組みを考えていただきたくスローガンを『TRY』とさせていただきます。

また、竹の子会の役職は単年度制であり、同じ役職を何度も経験することはありません。今までは自分の下で活動してくれたメンバーが次年度には役職が上になることがあります。会社ではなかなか経験することがないと思えます。人と人の繋がりの中で毎年、どのポジションになっても会員に対して、恩返しの気持ちを忘れず、竹の子会の活動を支えてくれる家族、会社の方々に感謝の気持ちを忘れないようにとサブタイトルを～恩返しの心を忘れずに～とさせていただきます。

最後になりましたが、今期で67期という長い歴史を迎えることとなります大垣竹の子会の更なる発展を目指し精一杯頑張る所存でございます。現会員をはじめ特別会員、関係各位の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げ私の挨拶とさせていただきます。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



7 8 月の予定



7月度例会(通常総会・懇親会)

日 時：令和4年7月22日（金）
19：00～

場 所：大垣フォーラムホテル

8月度例会(第38回水門川万灯流し)

日 時：令和4年8月6日（土）
17：30～

場 所：水門川一帯